

皆様へ、

2012年3月、私が所属していたUNITARを代表して、広島の平和大通り沿いにある同じ場所で、被爆樹の母樹からの子孫である2世代目の日本の柿（カキ）を植えました。植樹式は、本当に美しい式典でした。多くの広島グリーンレガシーの友人たちが参加し、今はおそらく大学生になっているであろう子どもたちが、式典を祝うために歌い、踊りました。



2012年3月



2021年3月

年月が経つにつれて、私はその小さな苗木が生き残るのだろうかと心配になりました。平和大通りの交通量や汚染が悪化する一方で、様々な祭りの電線、金属の囲い、プラスチックやその他のゴミが積もっている中で.....しかし、想像するに、近くに母樹があることで安心したのか、その小さな苗木は成長していきました。年々、季節ごとに、私が立ち寄るたびに、それは少しずつ力強くなっていたのです。

そして、強さに関する日本の諺「桃栗三年柿八年」（桃と栗は3年で実をつけ、柿は8年かかる）で予測されていた通り、8年目にその小さなカキの木は実をつけ始めました。最初はほんの少しずつ、そして今年の秋には、素晴らしいことに豊作となりました！無限の魔法のようです。当時ユニタール広島事務所の所長だったカルロス・ロペスは南アフリカからわざわざ訪れ、その成長に驚嘆しました。そして、私たちのグリーンレガシー広島（GLH）のチームも集まり、その実りを目の当たりにしました。

12月、グリーンレガシー広島（GLH）の樹木医である堀口先生は、カキの収穫準備が整ったことを私たちに再確認させてくれました。そして後日、堀口先生は、苦いカキを乾燥させて甘い蜜のような果物に変える伝統的な日本の方法で準備された干し柿を私に贈ってくださいました。



2024年11月



2024 年 11 月



2024 年 12 月



2025 年 1 月



自然の美しさ、寛大さ、そして魔法のような力を考えずにはられません。そしてこの思いを込めて、あなたとあなたの大切な人々に、戦争や困窮に苦しむすべての人々に、そして人類の最良の友人たちにも—この力強い小さなカキの木や、実際に私たちの世界を存在するすべての木々に、幸せで健康な新年をお祈りします。

「続く...」

新年おめでとうございます！

ナスリーン